

4大学連携のIRネットワークによる教育質保証システムの構築

同志社大学

教育の質保証を促進するために、国公立4大学が連携して、学生調査を軸とした客観的なデータに基づいて教育の現状を評価するIR（Institutional Research）機能の充実、IRを活用した相互評価、その評価結果を学生の学習時間の確保、単位制度の実質化に結びつける教育環境の整備に取り組んでいる。

1. 取り組みの経緯

平成20年12月の中央教育審議会答申のなかで指摘されているように、各大学が自らの教育理念と目標に基づき、学生の成長を実現する学習の場として学士課程を充実させることが強く求められている。しかし、「学位授与の方針」「教育課程編成・実施針」「入学者受入れの方針」という「3つの方針」すべてを統合的かつ客観的に自己点検・評価する質保証システムのモデルは、依然として模索状態にある。本学は教育の質保証を推進するために、北海道大学、大阪府立大学、甲南大学と連携し、文部科学省 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRシステムネットワーク」に取り組むことを通じて、学生調査や学内の既存の教育情報を収集・分析し、教育改善に資する材料を抽出する可能性を探るプロジェクトを展開してきた。

2. 取り組みの内容

4大学が連携して学生調査や学内の既存の教育情報を収集・分析し、教育改善に資する材料を抽出する可能性を探るうえで、重要になってくるのがIR（Institutional Research）という概念である。教育の質保証に関連するIRは、企業で用いられるIR（Investor Relations）ではなく、学内から収集した客観的なデータを数値化、可視化し、評価指標として管理、分析することで、教育改善や学習支援等に活用することを目指している。

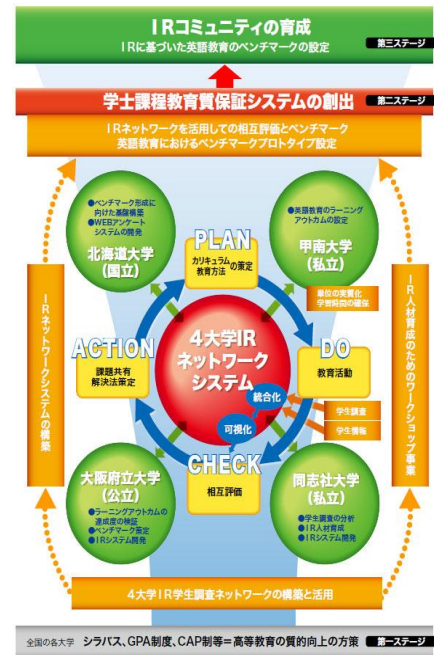
本プロジェクトでは、教学に特化したIR活動を推進するために、IRシステム（以下、IRiS）を構築した。IRiSには、本学で収集したデータだけではなく、連携している他大学で収集したデータも登録され、データはシステム内部で統合、集計処理される。その結果は、各大学での教育効果の測定として活用できるだけでなく、連携大学全体との比較も可能である。IRiSの特徴は以下のようにまとめられる。

① クラウド型データベース

IRiSはクラウド型のデータベースシステムであり、インターネットを経由してどこからでも利用できる。連携大学が安全に安心して利用できるよう、厳重なセキュリティ対策を施している。

② 共用データベース

各大学が個別に保有する学内情報のうち、教育改善、教育の質保証に関連性をもつ学生環境に関するデータ、たとえば学生数や教員数をはじめとした大学の施設・設備に関するデータや就職情報等が含まれる大学基本情報と学生調査に回答した学生に関する出身高校や入試区分といった入学関連データ、履修状況やGPA、単位取得状況等からなる教務情報と、学生調査の回答データをIRiSの中で統合することができる。なお、学生の教務情報と学生調査データは、各大学で匿名化処理を施したうえで、別個に登録するので、分析段階でも学生個人が特定されることはない。



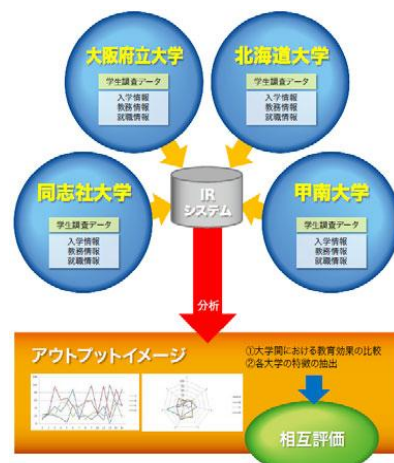
全国の各大学 シラバス、GPA制度、CAP制度等＝高等教育の質的向上の方策

③ 簡単操作で、わかりやすい結果表示

個別大学内で収集したさまざまな情報やその集計結果を、わかりやすく数値化・可視化するために、単純集計、クロス集計といった基本的な集計機能を I R i S に実装した。それに加え、項目同士を比較する機能、同一個人の変化をみる機能を備えており、データを蓄積することで経年変化を調べることができる。また、集計分析の結果は、集計項目に適した様々なグラフで表示できる。

④ 相互比較を活用した自校の現状評価

本プロジェクトの学生調査に参加している大学は自校の集計結果をダウンロードすることができ、さらに、学生調査に参加した大学全体やベンチマーキング・グループの集計結果と自校を相互比較する機能を利用できる。相互比較機能を使うことで、自校が提供する教育やその成果の強み、弱みを視覚的に把握することが可能になり、この結果を個別大学での教育改善や質保証に結びつけていく取り組みを4大学で進めている。



3. 期待される効果

教学 I R という概念の導入と普及の必要性が唱えられている一方で人材の確保、養成が難しいという課題も抱えている。I R i S を利用すれば、参加大学は学生調査を行うだけで、専用のソフトウェアや能力を持った人材を必要とすることなく、簡単に分析結果を入手できる。

教育改善を実質化する過程において、参加大学の関係者は I R i S で出力されたグラフで現状を把握した上でカリキュラム改革など適切なアクションを起こすことができるので、本来行うべき業務に費やす時間を確保できるなど、業務改善の一助としても有効である。

また、本プロジェクトの学生調査の最大の特徴は、国内外の理論的・実証的研究を参考にして開発されているという点にある。具体的には、日本版大学生研究調査プログラム J C I R P、ヨーロッパ言語共通参照枠組み C E F R を参考としており、長年に亘って培われた研究がベースとなっている点を強調しておきたい。また、米国の大学生調査の双璧をなす N S S E / C I R P をモデルとしており、ベンチマークとして利用可能な標準調査としても位置付けることができる点は、I R i S が単なるデータベースシステムではないことの裏付けである。加えて、1年生を対象にした調査と上級生（2～4年生）を対象にした調査を行うことで、学生の経年変化や成長を把握できるというメリットがある他、調査の際、学籍番号などの個人を特定する情報を記入させることにより、個々の学生の成績情報とリンクしたパネル分析も実現した。その結果、現状の教育プログラムの学生への浸透を客観的に点検することを可能にしている。また、連携大学やベンチマーキング・グループと自大学を相互比較するために、I R i S を活用することも可能である。これらのエビデンスに基づき、PDCA サイクルの C H E C K 自己点検・評価を行いながら、教育改善に資する材料を抽出し、教育の質保証を促進することを目指している。

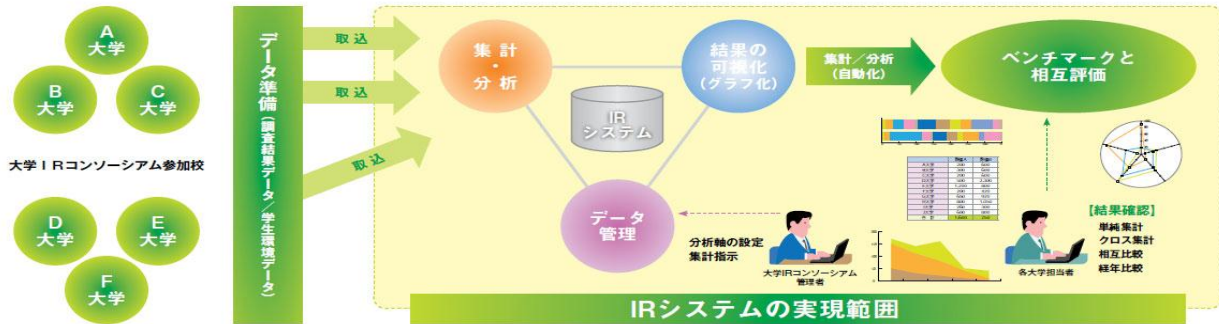
4. 今後の課題

文部科学省による補助事業終了後の平成24年度には、「大学 I R コンソーシアム」を創設し参加校を増やし、取組の輪を広げることを目指している。そこで生まれる成果には、教育ガバナンスの支援、認証評価や法人評価への活用、初年次教育および就業力育成の測定指標としての活用など、教育の質保証システムとしての一層の活用が期待される。ここにあげた活用事例はあくまでも例示であり、今後「大学 I R コンソーシアム」という枠組みの中で議論し、I R システムのさらなる活用の可能性を探り、各大学が教育の質保証を担保し、高等教育機関全体の活性化を担うことを目指していくことを計画している。

複数大学の調査結果を集計・分析し、レポートを自動生成

- 共通調査によって収集した調査結果データや学生環境データの取込
- IRシステムに取り込んだ各データの集計

- データ分析結果の表示、相互評価結果の表示
- 集計/分析データの共用と基礎的データの蓄積



大学間連携による教学IRの意味は？

指摘される日本の大学における
教学ガバナンスの不在

大学の個性性を考慮しつつ
標準性を活用することで
大学間連携教学IRの仕組みを構築

IRシステムの利用イメージ

参加大学は、「データ準備/登録」と「集計結果の閲覧」をするだけ

データ準備/登録

- 共通調査の実施
- 共通調査結果の収集
- 共通調査結果データの整形 (匿名化、登録フォーマット)
- 学生データの準備
- 学生データの整形 (匿名化、登録フォーマット)
- システムへのデータ登録 (専用画面でアップロード)

IRシステムによる集計処理

- 参加大学のデータ収集
- 集計/分析軸の設定
- 収集データの集計 (各校、全体等の集計単位)
- 集計結果の公開

集計結果の閲覧

- 集計結果の検索/閲覧
- 個別集計
- 単純集計、クロス集計、ドリルダウン、相互比較
- 経年比較
- 集計結果のデータ出力 (専用画面でダウンロード)
- 個別分析 (ダウンロードデータの利用)

※赤字部分はIRシステムで実現する部分。

全国規模の大学IRコミュニティ育成

IRコミュニティ
客観的なデータに基づいた
現状評価文化を
高等教育機関全体に普及、
広げること

コンソーシアムを通じて、
データ分析を容易にできる
システムを利用、
分析できる人材を育成